

準備会議題

1) 第1回準備会での懸案等について 30分

(1) 取り組むにあたってのスタンス・方法等と継続的に進んでいくための手法について

四国としての考え方(案)

・地域毎の開催(ブロック毎の事情)難しいところもある。出来る範囲で良いと考えている。最初は、特に形(メディア参加数等)に拘らず、個人的にお付き合いのある人からというスタンスで検討頂きたい。
 ・メディア関係者への対応は? 基本的には、個人的な繋がりからスタートし、意見交流の中で、どのように捉えられているか等、ご意見を伺いながら少しずつ意思の疎通を図っていくという事で理解頂きたい。
 ・継続性について 次年度以降の幹事ブロック、今後の予定も含めて、特にご同意を頂ければ、通年計画で進められる可能性はあるが、会の運営上、そこまでの連携はなかなか難しいと考えている。また、今年、単年の試みで、建設業の必要性について、マスコミ関係者と十分な相互理解を図ることは、出来る限り、そうしたい思いはあるが難しい。今回は、地道に地域毎に交流を図っていける土台を作ることを目標とすることで理解頂きたい。

北海道ブロックから順に意見を頂きながら意見交換

北海道	年間の計画が既に決まっているなか、新たにこの試みが入ると、時間的にも厳しい。規模を小さく講じられなければ準備も...。地域の中のメディアの報道は、建設業に対しては厳しい。懇意の方=YESマンだけでも?...
東北	6月に会長が代わる。試みの実施にあたっては、スケジュール的に厳しい。意見交流をした感触では、マスコミ(編集局長)の方々の考えと、こちら側の考えはかなりのギャップがあった。* 記者レベルになると、もっと認識差のギャップが大きいと思う。
関東	出来る範囲で協力はしたい。只、マスコミの方々と、直ぐに交流を図ることは難しい。昨年の進め方。外部の方からの意見を参考にするという要領で、他業種の方々との意見交流。そして建設業のイメージアップに繋げことでは。規模としては、役員会の際に、お招きして意見をお聞きする程度では。
中部	実施するということで予定している。四国の座談会の運営を参考にする。マスコミの方々は、個人的に持っている色々なチャンネルを活用して、継続して交流を図っていく必要がある。どうゆうメディアに来て頂くかにあたって、記者でも、地方を回られている方は、傾向として地方業界に明るい。都市部中心の方はその逆の傾向にあること。また、日頃から交流のある人(業界寄りの考え方の人)との討議では?という感がある。これらにも留意(見極め)が必要では。
北陸	7月に会長改選となる。対応は、四国の座談会をみて検討したい。時間的には厳しい。メディア関係の方々との交流が四国案の方法で適うのか?。各ブロックで出来る範囲を具体的に示す必要もある。メディア側にとって、有用な内容で無ければ...。と言う点も考慮が必要。
近畿	メディア関係の方々との個人的な繋がりを使って、出来る範囲で協力したい。具体的な方法は、四国の座談会をみて検討したい。
中国	一週間前に、会長就任。事前の経緯を十分に掌握出来ていないが...。四国の座談会をみてから考えていきたい。マスコミ関係者との意見交流はデリケートに捉えなければ...。ブロック内の各県の事情(マスコミ関係者との交流)にも違いがある。* 広島はほとんど無い。相手との相互理解までにはかなり時間を要する。まず、各県の活動を知って貰うことから始めたい。
九州	役員会の範囲の参集で、座談会開催を検討。個人的に交流のあるメディア関係者に聞くと、建設業の厳しい実態に興味があるという感じだった。今の時期、建設業の厳しさを知って貰ううえでは良いタイミングではと思う。
四国	出来る範囲とは。ブロック内の単県のメンバーとその県のメディアの方の座談会を、ブロック内の他県の方が傍聴する形でも。また、他業種他、建設業以外の方との意見交流でも良いと思う。(地域の現状を客観的な観点で議論するというところから。) マスコミの方々との交流に当たってのデリケートな扱いは、厳しい現状を説明。悪い部分があったことの釈明のみで無く、現実を踏まえて、将来に向けて、地域建設業者としての自らの新たな取り組みを提案。それに対しての意見を頂く方法で意見交流をしたいと考えている。

(2) 本大会での成果について

四国としての考え方(案)

・今回の大会で、何を各参加者に持って帰って貰うのか? 結局のところは、地域で地道に交流を図りながら、喧々諤々の議論を経て意思の疎通を図り、メディア関係者も含めて地域と協調していかなければならないことを確認。そして、各地域メディアがどのように建設業を捉えているか。それを踏まえて、どのように交流していけば良いのかを、参加者が各自考えていく契機として頂けるような大会としたいと考えている。

意見があれば...。特に意見は無かった。

(3) その他(各ブロックでの座談会開催に際して)

四国としての考え方(案)

・四国での開催のように、学識者(建設マネジメント)によりコーディネートして貰うことも1つの方法として参考として頂きたい。
また、その際に、高知工科大 草柳先生から、各地域毎の建設マネジメント委員会関係者のご紹介も可。
・四国の経験測として、一先ず、実施(経験)することで、当初の諸々の不安要因に対しての課題・具体的な対策も見えてきた。是非、実施可能な方法で実施(経験)して頂きたい。
・建設業の現況を説明する方法として、07中部ブロックで作成頂いた、中小建設業の現状を表現したDVDを最初に流して、続いてブロック内の状況を説明することも中部ブロックからのご了解が頂ければ、1つの方法として参考として頂きたい。

九州ブロックから、大会本番の要領も含め、順に意見を頂きながら意見交換

九州	大会は、折角の機会なので、危機感を共有出来るように。建設業の役割を理解頂くことは重要だが、テーマと違う話題に議論が方向付けされると…。真面目に経営に取り組める状況にならないと、一企業としては、雇用・納税・地域ボランティアも計っていけないことも理解頂きたい。
中国	九州ブロックの意見と同感。まずは、自分達の活動への理解から始めたい。
近畿	九州ブロックの意見と同感。建設業だけがキツイのとは無いが、建設業特有の、諸々の要因があることを伝える。
北陸	業界に対して、あまり良い感触を持って頂いてない状況を、逆の方向の考え方を持って頂くように変えることは難しい。
四国	建設業(自分達)が、知らない視点を吸収するという捉え方も必要と思っている。
中部	さぬきうどんの如く、粘り腰で取り組んで頂きたい。中部は基本的には、四国の座談会の要領を見て、開催はしたいと考えている。只、案として示されている要領では分かり難い。論的をもう少し明確にすべき。また、業界側のみでの説明・提案(主張)ありきでは、説得力に欠けるのでは。 基調の論点を、パワーポイント5枚程度にまとめる。* 論点を集約することで、各地域で実施・その結果を集約する際も統一感が出せる。現状の説明については、各地域の倒産・入札制度・歩切り・不調の状況をデータとして揃えて説明することも…。今の危機的状況が、必ずしも建設業者側の問題でのみで起っているのでは無いことを客観的に伝えるため。 本省から、今回の趣旨の詳細までの理解は頂いているのか。(この点は再度、ご説明に伺うこと。)メディアの報道は、自らの経験測からも、取材結果・報道の内容を、事前に確認することは出来ない。させて貰えない。もし、大会本番で、意図しない方向に進んだ場合、非常にご迷惑をお掛けすることになるということに十分に注意すること。
関東	中部の意見の論点を絞り込むことは同感。現状を伝えること…。それだけでは?。子供やその父兄(PTA)、女性(婦人会)を交えることで、マスコミ側の受ける印象が変わるのでは。
東北	中部の意見の論点を絞り込むことは同感。
北海道	各地域での座談結果をどのようにまとめていくのか。何で統一性を出すのか。
四国	現状と役割を伝え、そのうえで、自らの方向性を示すこと。これを基本に、論点を整理して提案させて頂く。

2) 開催テーマ、趣旨及び、小テーマに沿った議論の進め方について * 2)と3)、4)の報告で、35分

中部	小テーマ1)は分かる。只、当事者が説明して理解頂けるのかが?。また、建設産業論なのか。一企業論なのか。整理が必要。
四国	建設産業論(整備に関するもの)と、企業努力をしていくものの議論は分けていきたいと考えている。* 自ら変わって行きたい方向性を示していきたい。補足...議論の前提部分としては、産業論にも関連するが、今回は、その前提を踏まえて、企業としてどのように対応していくべきかを考えていくための議論としたい。
中部	本省へのご説明は?マスコミ関係者から、地域建設業者のあり方以外の質問があった際の対応は?。また、座談会の目的とするところを、分かりやすく示すキャッチフレーズ等を考えてみてはどうか。
四国	本省へは概要は報告。一応、ご了解は頂いている。
中部	ギリギリの状況の中で、知恵を絞って努力している姿勢を示すことが重要。
コーディネーター	論点としては、「地域建設産業が何をすべきか。」 ・どんな光(小さなものからでも)を示していくのか。 ・マスコミ関係の方々には、建設業の諸事情の詳細なところまでは、ご存知無いという前提のもと、まずは、建設業の状況を、彼らを通じて報道して頂くことでなく、コミュニケーションを図る(心を掴む)糸口をつくることを最前に考えるべき。 ・これまで、問題が起ってきたとき、十分な説明が出来てなかった。これからは、当事者が正しく情報を発信する努力をしていかなければならない。 ・社会資本整備の仕組み等も現況に合わせていく必要がある。 ・デリケートな問題を伝えることを危惧するのは当然。慣れていないからということもある。 ・参会者の心に今回の試みの意図が、少しでも残ることが最も重要。

3) 大会要領について

コーディネーター	地域(四国)での実施と、大会本番の進め方に関しては、イメージとしては多少変わってくると思う。大会での進め方においては、配慮は必要。中央紙他にどう解釈されるのか等を考慮し、地方からの意見(地方色)が出せるようにしたい。
中部	大会の際の壇上設営の想定は?
四国	大会の際の壇上の設営は、今後、地域毎の座談会の開催状況も踏まえ、詰めていきたい。大会開催の情報について、中央紙等へは投げ込み等により、OPENにさせて頂く予定。

4) 開催までの予定と各ブロックへの依頼事項を報告 (併記資料参照)

「ブロック代表者による今後の方向性を申合せ」結果概要

1.意見内容等

- 1) 何月までに、各地域で座談会開催をするのか等を決めてはどうか。大会の座談会の要領(パネリスト・小テーマ等)も再度調整を。
- 2) 今回の座談会PP資料は、参考として全ブロックに交付頂きたい。
- 3) 本省、四国地方整備局へ再度、確認のうえご了解を頂くこと。(中部より)
- 4) 根本を整理すること。中国では、これからがスタート。共通認識までにも時間を要する。コーディネーターの力量に懸かっている。今回の座談会資料を元に、ブロックで資料作成をしたい。(中国より)
- 5) ブロックで開催する際、地域建設業者のあり方以外の質問をどこまで受け、どう説明するのか。当事者でなく、学識者から客観的に説明頂くこと(四国例)を、1つの方法として提案。(近畿より)
- 6) 参考として...中部での昨年の開催の際は、コーディネーターには、問題の意見が出たときは、テーマと違うことで切って頂いて、議論がそちらの方向に進まないようにして頂くことをお願いをした。* 中部内でも、その解釈で共通認識出来た。

2.今後に向けての申合せ事項として

- 1) 小テーマを、建設業の厳しい現状と役割、新たな方向性・自らの提案等の2つでシンプルにすること
- 2) 今回の座談会PP資料を、参考として各ブロックにデータで交付。
- 3) 本省、四国地方整備局へは、今回の意見・進捗状況報告のうえご了解を頂くこと。